

「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

令和6年度の「全国学力・学習状況調査」の本校の結果をお知らせします。

なお、この調査は全国の6年生を対象に毎年行われています。この結果をもとに今後の学習や生活の改善に生かしていきます。学校・家庭・地域が互いに協力、連携し合いながら、一人一人の児童の学力向上に向け取り組んでいきたいと思ひます。今後とも、ご理解、ご協力、よろしくお願いいたします。

1 教科について

(1) 国語について

- 正答率が80%以上の内容は、情報の扱いに関する事項で、知識・技能を聞かれている問題です。また、選択式の問題となると正答率は高い傾向にあります。
- 正答率が40%以下の内容は、話すこと・聞くことや読むことの思考力・判断力・表現力の問題です。
- 解答の形式として、短答式や記述式など文を書く問題になると無回答率が、県平均や全国平均と比べ高くなっています。問題文が長く、必要な情報を見つけることができない傾向があります。ここから読み取る力が必要だと分かります。

(2) 算数について

- 正答率が80%以上の内容は、数と計算と図形です。基礎的な計算の技能や図形の知識は定着している事が分かります。
- 正答率が40%以下の内容は、式と計算、図形、変化と関係、データの活用です。ここは思考力・判断力・表現力の問題で記述式です。
- 正答率の低いものほど無回答率が県平均や全国平均よりも高くなっています。聞かれていることが、応用力を必要とし、どのように記述すればよいか分からないことと、必要な情報を整理できなかったと考えられます。

(3) 両教科に共通すること

- 国語、算数ともに読み取る力、内容を整理する力、考えを書く力が必要と考えられます。
- 家庭での学習習慣を定着させ、基礎学力の定着を目指すとともに、朝学習などを活用してスモールステップでの成長を促していきたいと思ひます。
- 既習内容を振り返り、バランスよくどの領域も定着できるようにする。

2 質問紙について

- 生活習慣については、ある程度身についています。また、自己肯定感が高い傾向にあります。友達関係に満足し、困っている時に助け合う関係ができていることが理由だと考えられます。
- 休日や放課後の学習時間がやや少ないです。また、ゲームが55%、SNSや動画視聴が50%と2時間以上使用しているようです。
- 国語、算数ともに大切な学習であることはわかっているが、苦手意識を持っている児童がやや多い傾です。どちらの教科も将来役に立つことは理解しているが、苦手意識があるようです。
 - ・国語は、情報を整理したり、目的に応じて伝える内容を考えたりすることに抵抗があります。
 - ・算数は、苦手意識はあるが、最後までやろうとする気持ちは強いです。
- ICTを活用した学習にはとても好意的です。